編　集　後　記

ここ２～３日，寒気で日本列島がすっぽりと覆われて，日本海側は近年にない大雪に見舞われていますが，会員諸先生方におかれましては，この寒さにも負けずに各臨床科および基礎医学分野で御活躍のことと御推察いたします。さて，本日山梨医科学雑誌（YMJ）27 巻１号をお手元にお届けいたします。本号では，(1)「小児急性リンパ性白血病の完治を目指して―山梨大学小児科の治療成績から振り返る進歩と今後の課題―」（犬飼岳史先生），(2)「微細藻類「バイノス」による放射性物質の除去」（志村浩己先生），(3)「既存の母子保健データを活用した出生コホート研究―妊娠中の喫煙と胎児および子どもの発育に関する検討―」（鈴木孝太先生）の３編の総説が掲載されております。YMJ としては，新任の先生方には，御自分のなされた研究内容を学内外に発信していただく良い機会と思いまして，順次に御願いいたした次第です。さらに，都留市立病院の岡本廣挙先生からは，日々の臨床診療で御多忙中にもかかわらず，『Sphingosine 1-phosphate Stimulates Cell Migration and Active Seprase Expression in Human Endothelial Cells』のタイトルで，非常に興味深い研究内容の御投稿を頂きました。あわせて，御一読いただきたいと思います。

さて YMJ が School Journal として定期刊行していくには，御投稿をしていただく学内外の諸先生方の労力と時間を費やす御努力が必要です。また，学内各編集委員は，一連の編集作業を担当することになり，これもまた多大のエネルギーが必要となります。このように皆様の御支援で，YMJ の定期刊行は維持されております。そこで，まずは単著の学位論文を積極的に YMJ に掲載するといった学内の雰囲気作りをする必要があります。卒業したての若い研究者や研修医が，最初の論文（和文，欧文どちらでも）を，YMJ に自分の力で掲載できたことを誇りに思えるようなモチベーションのことです。わずかでもノイエスのある“良い論文”は，どこに掲載してもインパクトはあるものなのです。何も掲載雑誌の“格づけ”にこだわる必要はありません。本当の価値を判断されなければならないのは，その論文自体であり，掲載雑誌の評価ではありません。若い研究者や臨床科医には，自信を持って YMJ に投稿してもらいたいものです。

最後になりますが，本年の 2012 年 27 巻１号からは，編集委員長が久保田健夫先生（環境遺伝医学）に代わられ，年４回の YMJ 定期刊行が再び行なわれるようになることと思われます。この山梨医科学雑誌は，過去 25 年間の歴史を踏まえ，皆様の御協力により，新たな飛躍が期待されます。

平成 24 年 12 月中旬

（杉田完爾，文責；大野伸一）

山梨医科学雑誌　第 27 巻　第１号
平成 25 年 ２ 月 １ 日

編集・発行　山梨大学医学会
〒 409-3898 山梨県中央市下河東 1110 番地
山梨大学内 Tel. 055-273-1111（内）2242

印　刷　所　株式会社　東京プレス
〒 161-0033　東京都新宿区下落合 3-12-18 3F
Tel. 03-5982-9291